

令和 7 年度 事業報告書

社会福祉法人中蒲原福祉会

〒950-0121 新潟市江南区亀田向陽 2 丁目 6 番 1 号

TEL 025-382-8251

FAX 025-382-8252

目 次

まえがき	1
1 法人の重点目標	1
2 法人が運営する事業	2
3 職員配置の動向	5
4 業務委託等	6
5 年間活動報告	8
6 喀痰吸引等研修	8
7 補助金事業	9
特別養護老人ホーム向陽の里 事業報告書	10
特別養護老人ホーム横雲の里 事業報告書	12
特別養護老人ホームこすど蒼丘の里 事業報告書	14
特別養護老人ホームなかかんの里 事業報告書	16
特別養護老人ホームかめだ本町の里 事業報告書	18
特別養護老人ホームにこやか 事業報告書	20
ショートステイかめだ早通の里 事業報告書	22
デイサービスセンター第2 蒼丘 事業報告書	23
デイサービスセンターリハフィットこうよう 事業報告書	25
グループホームこうよう 事業報告書	26
障害者支援施設あさひ園 事業報告書	27
障害福祉サービス事業フルールこすど 事業報告書	28
障害福祉サービス事業わかばの家 事業報告書	30
障害福祉サービス事業ネクサス・わかば 事業報告書	32
障害福祉サービス事業メイプルかめだ 事業報告書	34
障害福祉サービス事業メイプル・ぷらす 事業報告書	36
地域活動支援センターかめさん 事業報告書	38
四つ葉こども園 事業報告書	39
地域子育て支援センターにこっと 事業報告書	40

まえがき

基本理念『すべての人の笑顔と信頼のために』の実現に向けて、当法人に関わるご利用者・ご家族・地域住民・職員等全ての人が笑顔になれるように、法人基本方針、行動指針を意識しながら職員一同取り組んだ。

1 法人の重点目標

（１）職員確保と人財育成

年間を通して常勤職員の確保はできていたが、パート採用については人員の確保に苦慮した。ホームページの求人情報においては、求職者が閲覧しやすいよう職種ごとに掲載した。また、各施設の人員不足状況を法人内フォルダで共有し、迅速にハローワークやホームページで募集をかけた。パート時給の底上げや勤務時間等の工夫（入浴専門パート、通し夜勤専門パート）を行いながら募集を行ったが、特に特養のパートについては応募が少なく補充しきれなかった。新卒採用については外国人を含め計 16 名を採用した。昨年度に比べ新卒採用数は 1 名増えたが、日本人に限ると 4 名少ない結果となった。また、外国人を計画的に採用するため外国人の採用面接を行い、外国人 5 名を令和 11 年度採用内定とし、令和 9 年度に正職員として内定している外国人留学生 5 名をパート採用した。

人財育成についてはキャリアパス研修を開催し延べ 176 名の職員が参加した。また、その参加者の中で専門職に転向した職員や昇格した職員もあり、人財育成につながっている。キャリアパスについてはまだ浸透には至ってはならず、今後はキャリアパスの内容について評価を行いながら浸透を目指したい。

（２）労働環境の改善

キャリアの選択肢が多様化する中で、役職者やリーダーは多岐にわたる責務があることから法人の基本方針である「公正な評価と待遇」に沿って役職手当の増額やリーダー業務を行う職員の手当を新設し、年度末には決算賞与の支給により組織全体の士気向上につながった。また、職員が安心して働けるように園長をはじめ役職やリーダーが中心となって随時職員面談を行った。メンタルヘルス面で配慮を要する職員については状況を慎重に確認し、必要に応じて配置転換やサポートを行った。今年度は、カスタマーハラスメント指針の基盤となる内容を策定した。令和 8 年度は法改正によりカスタマーハラスメント対策が義務化されることを踏まえ、対応を進めていく。

（３）業務改善による効率化

近年、継続目標として掲げている効率化への意識が各施設で高まり、多くの取り組みを進めた。インカムの活用については導入施設が増え、幅広い職種が使用することで、職員間コミュニケーションの向上に良い効果が見られる。また、記録業務においても音声入力や動画の活用など、さらなる効率化が図られている。労務関係では、採用手続きや職員の身上申告など、これまで紙で行っていた業務を Web 化したことで、大幅な効率化につながった。

2 法人が運営する事業

令和8年3月31日現在

法人本部	
	介護職員等による喀痰吸引等研修 定員 20 人
特別養護老人ホーム向陽の里	
1	介護老人福祉施設 定員 80 人
2	短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業 定員 16 人 障害福祉サービス事業（短期入所・空床利用型）
3	通所介護事業 定員 28 人 介護予防通所介護相当サービス事業 共生型生活介護事業（障がい者向けデイサービス・空床利用型）
4	居宅介護支援事業
5	生活援助員派遣事業亀田向陽住宅（新潟市委託事業）
特別養護老人ホーム横雲の里	
1	介護老人福祉施設 定員 50 人
2	地域密着型介護老人福祉施設 定員 20 人
3	短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業 定員 49 人 障害福祉サービス事業（短期入所・空床利用型）
4	通所介護事業・介護予防通所介護相当サービス事業 定員 35 人、土曜・日曜 30 人 共生型生活介護事業（障害者向けデイサービス・空床利用型）
5	居宅介護支援事業
特別養護老人ホームこすど蒼丘の里	
1	介護老人福祉施設（定員 70 人）
2	短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業 定員 20 人 障害福祉サービス事業（短期入所・空床利用型）
3	通所介護事業・介護予防通所介護相当サービス事業 定員 35 人、日曜 30 人 共生型生活介護事業（障がい者向けデイサービス・空床利用型）
4	居宅介護支援事業
特別養護老人ホームなかかんの里	
1	介護老人福祉施設 ユニット型：定員 60 人、従来型：定員 40 人
2	短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業 定員 20 人 障害福祉サービス事業（短期入所・空床利用型）
特別養護老人ホームかめだ本町の里	
1	地域密着型介護老人福祉施設 定員 29 人
2	短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業 定員 10 人
3	訪問介護事業 介護予防訪問介護相当サービス事業 居宅介護・重度訪問介護事業（障がい者向けホームヘルプサービス） 移動支援事業

特別養護老人ホームにこやか
1 地域密着型介護老人福祉施設 定員 29 人
2 短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業 定員 10 人
3 通所介護事業・介護予防通所介護相当サービス事業 定員 25 人、土曜 20 人
ショートステイかめだ早通の里
1 短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業 定員 48 人 障害福祉サービス事業（短期入所・空床利用型）
デイサービスセンター第 2 蒼丘の里
1 通所介護事業・介護予防通所介護相当サービス事業 定員 25 人、月曜～土曜
2 生活援助員派遣事業小須戸大川前住宅（新潟市委託事業）
デイサービスセンターリハフィットこうよう
1 通所介護事業・介護予防通所介護相当サービス事業 定員 35 人
グループホームこうよう
1 認知症対応型共同生活介護 予防介護含む定員 9 人
障害者支援施設あさひ園
1 施設入所支援・生活介護事業 定員 20 人
2 短期入所事業 定員 4 人
3 日中一時支援事業 定員 4 人
障がい福祉サービス事業フルールこすど
1 生活介護事業 定員 18 人
2 就労継続支援 B 型事業 定員 35 人
3 相談支援事業
障がい福祉サービス事業わかばの家
1 生活介護事業 定員 15 人
2 就労継続支援 B 型 定員 45 人
3 日中一時支援事業 定員 6 人
4 相談支援事業 （新潟市指定特定相談支援事業、新潟市委託障がい者（児）等相談支援事業）
障がい福祉サービス事業ネクサス・わかば
1 生活介護事業 定員 40 人
2 就労継続支援 B 型事業 定員 20 人
3 短期入所事業 定員 12 人
4 放課後等デイサービス事業 定員 10 人
障がい福祉サービス事業メイプルかめだ
1 就労移行支援事業 定員 7 人
2 就労継続支援 B 型事業 定員 40 人 主たる事業所（本館）25 人、従たる事業所（2 号館）15 人
3 自立訓練（生活訓練） 定員 13 人
4 日中一時支援事業 定員 3 人

5	就労定着支援事業
6	グループホーム事業定員 14 人（男性 7 人＋女性 7 人）
障がい福祉サービス事業メイプル・ぶらす	
1	就労継続支援 A 型 定員 17 人
2	就労継続支援 B 型 定員 35 人
地域活動支援センターかめさん	
1	地域活動支援センターⅢ型事業 定員 20 人
2	サポート相談事業
四つ葉こども園、地域子育て支援センターにこっと	
1	保育所型認定こども園 定員 115 人（1 号 15 人、2・3 号 100 人）
2	一時預かり事業（拠点園）
3	地域子育て支援拠点事業

3 職員配置の動向

職員の経験、資格、適性等をみながら職員配置を行った。職員全体の年齢層のバランスは良いが、職種により偏りがあるため、各職種において次世代の育成が法人の課題である。また労働人口の減少が見込まれる中、常勤職員採用予定の外国人学生をパート職員として採用し、将来を見据えた配置を行った。

事業所名	常勤	非常勤	派遣	産休育休	合計
法人本部					
法人本部	8	3	0	0	11
高齢者事業					
特別養護老人ホーム向陽の里	53	34	0	2	89
特別養護老人ホーム横雲の里	61	53	0	3	117
特別養護老人ホームこすど蒼丘の里	48	56	3	4	111
特別養護老人ホームなかかんの里	47	39	0	5	91
特別養護老人ホームかめだ本町の里	25	10	1	0	36
特別養護老人ホームにこやか	24	17	0	3	44
ショートステイかめだ早通の里	21	15	0	1	37
デイサービスセンター第2蒼丘	3	9	0	0	12
デイサービスセンターリハフィットこう	5	7	0	0	12
グループホームこうよう	6	4	0	0	10
障がい者事業					
障害者支援施設あさひ園	7	7	0	1	15
フルールこすど	8	23	0	1	32
わかばの家	16	13	0	0	29
ネクサスわかば	31	27	0	3	61
メイプルかめだ	17	17	0	0	34
メイプルぷらす	12	7	0	1	20
かめさん	2	4	0	0	6
保育事業					
四つ葉こども園	13	27	1	2	43
合計	407	372	5	26	810

4 業務委託等

委託業務	委託業者（敬称略、順不同）
労務	社会保険労務士水戸事務所
会計	会計監査人 あすの監査法人 税理士法人 さくら総合会計事務所
弁護士	顧問弁護士 しなのがわ総合法律事務所
嘱託医	亀田第一病院 森川医院 こうなん family クリニック 片桐医院 押木内科神経内科医院 清野医院 丸山診療所 堀クリニック 吉田医院 こどもの森クリニック
協力病院	亀田第一病院 新津医療センター病院
協力歯科	かざま歯科クリニック 三浦歯科医院 小林歯科医院 丸山歯科医院 みゆき歯科医院 枝並歯科クリニック 枝並歯科医院 うらら歯科
看護業務、訪問看護	ナースパートナー 訪問看護ステーション tete
給食業務	石本商事 日本フードリンク フルールこすど メイプル・ぷらす
弁当配達業務	わかばの家

	ネクサス・わかば かめさん
講師	齋藤 智美
施設清掃、園舎整備	シルバー人材センター ケイクリーンサービス ほほえみ作業所 就労継続支援 B 型 のびのび フルールこすど わかばの家 ネクサス・わかば メイプルかめだ メイプル・ぷらす
洗濯業務	シルバー人材センター フルールこすど メイプル・ぷらす
宿日直業務	シルバー人材センター

5 年間活動報告

(1) 苦情受付

年間を通して様々な苦情をいただいた。10月に第三者委員会を開催し、苦情内容や対応について報告を行った。その内容については法人のホームページに公開した。今後とも地域に信頼される法人であるために真摯に対応を行っていく。

(2) 情報公開

事業計画書、事業報告書、入札、苦情処理体制等のサービス提供に関する取り組みと権利擁護に関する取り扱い等の掲示を行い、事業者としての透明性ある運営を行った。また、情報公表サービスや法人のホームページでも情報公開を行い、地域の方々にとって必要な情報の提供を行った。

(3) 新規事業準備

新規事業はなかったが、令和8年度の中新田福祉会との合併に向け準備を進め、合併契約書の締結や土地の売買契約を行った。また、新潟市に合併認可申請を行い、無事に認可を受けることができた。

(4) 入札について

特別養護老人ホーム「にこやか」において補助金事業として電気温水器・給湯器入替工事の入札を行い研冷工業株式会社が落札し、入替工事を行った。

6 喀痰吸引等研修

研修実施状況	受講者数
6月開講コース（定員20名）	19名

介護現場等における痰の吸引等のニーズや実態を踏まえ、法人内介護職員及び地域の介護職員に専門的な研修の場を提供してきた。昨年度に比べ定員を5名増やしたが、内部受講者が増え、外部受講者は減少している。スクーリング受講者が11名、実地研修のみの受講者が8名、合計19名（内部18名：外部1名）での開講となった。

7 補助金事業

(単位：円)

高齢事業	結核	光熱費	物価高騰	賃上げ	人材確保	減免	歳末	健診	合計
向陽の里		765,000	2,465,600	7,783,110	294,389	34,000		163,200	11,505,299
横雲の里	40,000	930,000	3,051,400	10,080,832	103,814		150,000	168,000	14,524,046
こすど蒼丘の里	47,740	600,000	2,454,000	8,874,268	389,279			206,400	12,571,687
なかかんの里	72,146	915,000	2,472,000	8851,960				124,800	12,435,906
かめだ本町の里	25,000	225,000	851,400	3,709,681	109,917			54,400	4,975,398
にこやか		270,000	1,203,400	3,886,308	69,803		51,149	62,400	5,543,060
かめだ早通の里		225,000	988,800	2,563,635	57,495			56,000	3,890,930
第2 蒼丘			400,000	964,403	39,159				1,403,562
リハフィットこうよう			560,000	928,851	75,183				1,564,034
グループホームこうよう			185,400	797,641	10,084			16,000	1,009,125
合計	184,886	3,930,000	14,632,000	48,464,661	1,125,151	34,000	201,149	851,200	69,423,047

【凡例】

結核：新潟市 結核予防接種補助金
 物価高騰：新潟市 物価高騰対策支援金
 人材確保：新潟県 介護職員人材確保・職場環境改善等支援金
 歳末：江南区社会福祉協議会 歳末助け合い
 光熱費：新潟県 光熱費等高騰対策補助金
 賃上げ：新潟県 賃上げ環境改善支援金
 減免：新潟市 減免助成金
 健診：新潟市勤労者福祉サービスセンター 健診補助金

(単位：円)

障害事業	進出準備	送迎	物価高	処遇改善	光熱費	地活	負担	共同	健診	合計
かめだ本町の里			48,000	281,955						329,955
あさひ園			412,000	1,853,043	300,000				30,400	2,595,443
フルールこすど			915,000	1,339,788						2,254,788
わかばの家			1,091,000	2,113,125					46,400	3,250,525
ネクサス・わかば			1,367,200	3,388,091					91,200	4,846,491
メイブルかめだ			1,296,400	1,229,861				701,400	56,000	3,283,661
メイブル・ぶらす	98,714		832,000	916,645					35,200	1,882,559
かめさん		10,151,002	320,000			2,426,229	8,460			12,905,691
合計	98,714	10,151,002	6,281,600	11,122,508	300,000	2,426,229	8,460	701,400	259,200	31,349,113

【凡例】

進出準備：新潟県 進出準備研究経費等支援補助金
 物価高：新潟市 物価高騰対策支援金
 光熱費：新潟県 光熱費等高騰対策緊急支援金
 負担：新潟市 利用者負担軽減額
 健診：新潟市勤労者福祉サービスセンター 健診補助金
 送迎：新潟市 送迎・利用実績補助金
 処遇改善：新潟県 処遇改善緊急支援補助金
 地活：新潟市 地活Ⅲ型運営補助金
 共同：新潟市 共同生活援助事業所支援事業補助金

(単位：円)

保育事業	延長	一時	物価	事故防止	すこやか	支援	健診	合計
四つ葉こども園	1,975,900	2,460,200	460,000	375,000	34,000	8,714,000	59,200	14,078,300
合計	1,975,900	2,460,200	460,000	375,000	34,000	8,714,000	59,200	14,078,300

【凡例】

延長：新潟市 延長保育補助金
 事故防止：新潟市 事故防止補助金
 健診：新潟市勤労者福祉サービスセンター 健診補助金
 一時：新潟市 一時預かり補助金
 すこやか：新潟市 すこやか補助金
 物価：新潟市 物価高騰対策支援金
 支援：新潟市 支援センター補助金

(単位：円)

その他	防災改修	設備導入	JKA	日本財団	真柄財団	ノーリツ	共同募金	合計
横雲の里			2,272,000					2,272,000
にこやか	7262,000			2,288,000				9,550,000
グループホームこうよう		1,180,000						1,180,000
フルールこすど					519,000			519,000
わかばの家					1,000,000	3,000,000		4,000,000
ネクサス・わかば					678,000			678,000
メイブルかめだ							1,184,000	1,184,000
合計	7262,000	1,180,000	2,272,000	2,288,000	2,197,000	3,000,000	1,184,000	19,383,000

【凡例】

防災改修：新潟市 防災改修等支援事業補助金
 JKA：JKA 福祉機器の整備補助金
 真柄財団：真柄福祉財団 備品等助成金
 共同募金：新潟県共同募金会 整備助成金
 設備導入：新潟県 原油・原材料価格高騰等対応設備導入緊急支援事業補助金
 日本財団：車両セレナ助成
 ノーリツ：ノーリツぬくもり財団 給湯器リサイクル事業助成

特別養護老人ホーム向陽の里 事業報告書

1 施設の重点目標

・働きやすい職場づくり

職員間のコミュニケーションを土台とし、相互理解や称賛ができる風土の醸成を目指してチーム力の向上と生産性の向上に取り組んだ。しかし、現状ではコミュニケーション不足がみられ、日々業務に追われる中で、互いに称賛し合う余裕までは十分に確保できていないように感じる。また、業務がユニットごとに完結する傾向があるため継続的な働きかけを行った。結果として垣根を越えて協力しようとする姿勢は徐々に見られるようになり、現状レベルでの業務改善はその都度実施するなど、前向きな変化があった。引き続き職場の働きやすさと業務の効率化を目指し、質の高いサービス提供に取り組んでいく。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
特養（従来） 定員 80 人	稼働率	96.0%	95.8%	△ 0.2%	年間入退居 入居 28 人 退居 27 人
	利用者	76.8 人/日	76.7 人/日	△ 0.1 人	
短期入所 定員 16 人	稼働率	92.0%	91.5%	△ 0.5%	年間延利用者 介護 5,186 人 障害 157 人
	利用者	14.7 人/日	14.6 人	△ 0.8 人	
通所介護 定員 28 人	稼働率	75.0%	58.5%	△16.5%	年間延利用者 介護 5,962 人 障害 590 人
	利用者	21.0 人/日	16.3/日	△ 4.7 人	
居宅介護 最大 220 件	稼働率	80.0%	60.4%	△19.6%	年間総件数 介護 1,419 件 予防支援 568 件 サービス A 161 件
	件数	176 件	133 件	△ 43 件	

3 事業実績

<特養>

入退居数は例年並みであった。退居者 27 名中、22 名に対し看取り介護を実施し、施設で最後まで支援できたことは職員の励みとなった。退居から入居までの平均日数は 15 日程度だったが、ご家族の都合で入居が遅れるケースや施設内感染の蔓延により入居が遅れたことが目標達成できなかった要因の 1 つとなった。退居後は迅速に入居へつなげられるよう努めていく。

<短期入所>

1年を通して入院者が多く、入院期間の目途を確認し調整していたがご家族の都合等で入替えに時間を要したケースもあった。また、下半期には多くの新規を獲得したがその分終了ケースも非常に多かった。特養相談員と密に連携をとりながら特養空床も活用し稼働を上げることができた。

<通所介護>

重度ご利用者の入院や終了が多かった。軽度の方の見学もあるものの、重度ご利用者の様子を目にする事で将来像を重ね、利用につながらないケースも多く見受けられ稼働低下が継続している。地域のニーズが軽度者中心へと移行していることを踏まえ、現行のサービス内容と利用者構成の見直し、老朽化した建物の改築を進めている。それに伴い、重度ご利用者の事業所変更も生じ更に稼働低下となった。今後は、軽度や中度の方に向けたサービス内容の充実と運営体制の見直しを進め新規ご利用者の獲得を勧めながら新しいデイサービスにしていく。

<居宅介護>

4月と9月に1名ずつ退職者が生じ、人員の変動があった中で担当件数は昨年と同程度を維持したものの、要支援の割合増加により実績の伸びは目標水準に至らなかった。

4 その他

老朽化にともないベッドやマットレス、厨房関係、備品等の入替えや、設備故障等が多かった。

特別養護老人ホーム横雲の里 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・職員の倫理意識と接遇の向上

毎月実施している各部署内の会議を通じて職員間で状況を共有し、小さな気づきを増やすとともに、言葉遣いやプライバシーへの配慮について改めて意識づけを行った。その結果、不適切ケアや権利侵害につながる事案は発生しなかった。今後も職員一人ひとりが意識し良好な環境を維持できるよう努めていく。また新たに職員が入職した際も、同様に意識できるようマニュアルの再構築を行っていききたい。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
特養（従来） 定員 50 人	稼働率	96.0%	95.5%	△ 0.5%	年間入退居 入居 18 人 退居 16 人
	利用者	48.0 人/日	47.8/日	△ 0.2 人	
特養(地域密着) 定員 20 人	稼働率	95.0%	97.6%	2.6%	年間入退居 入居 5 人 退居 5 人
	利用者	19.0 人/日	19.5 人/日	0.5 人	
短期入所 定員 49 人	稼働率	91.8%	90.1%	△ 1.7%	年間延利用者数 介護 15,865 人 障害 251 人
	利用者	45.0 人/日	44.1 人/日	△ 0.9 人	
通所介護 定員 40 人	稼働率	80.0%	73.3%	△ 6.7%	年間延利用者数 介護 9,278 人 障害 138 人
	利用者	30.0 人/日	25.8 人/日	△ 4.2 人	
居宅介護 最大 253 件	稼働率	80.0%	54.5%	△25.5%	年間総件数 介護 1,452 件 予防支援 624 件 サービス A248 件
	件数	202 件/月	138 件/月	△ 64 件	

3 事業実績

<特養（従来）>

入院者数が 40 名とここ数年で一番多く、1 ヶ月を超える入院もあった。昨年度と同様で冬に入院者が増える傾向がある。新規ご利用者のうち横雲の里短期入所のご利用者から入居される方が多く、入居の申し込みについても横雲の里短期入所ご利用者から多い。今後も短期入所と連携を取りながら進めていく。退居後から新規入居についてはスムーズに入居していただけたが、入院者が多いことで稼働率は目標に達することができなかった。

<特養（地域密着）>

入居申込者が少ないが、横雲の里短期入所ご利用者の方から入居していただくことで多くの空床にはならなかった。退居や入院はあったが、比較的落ち着いている年だった。入居申し込みがあった際は施設見学も積極的にお勧めし、入居につながるよう努めていく。

<短期入所>

長期利用から特養へ入居するという流れが定着しつつある。今年度、従来型は18名中14名（長期利用者が入居する割合77.8%）、地域密着型は5名中3名（長期利用者が入居する割合60%）が特養に入居した。その反面、稼働が大幅に落ち込む時期があった。今後も特養との連携を密に取り組んでいく。特養の状況を把握しながら早めに、こまめに空き情報を伝えるように努める。

<通所介護>

年度途中に利用定員を変更（平日5名減）したものの達成には至らなかった。1年を通し利用休止（入院、入居等）が新規受け入れを上回り、かつ利用期間が短縮傾向にあり厳しい状況が続いている。機能訓練、入浴をサービスの柱に、外出レクなどのイベント要素の強いプログラムを実施していくことでご利用者の満足度を高め安定した稼働維持につなげていく。

<居宅介護>

特養や老健などの施設入所が進み、サービス利用を終了するご利用者が増えている。新規は介護から予防にシフトしており件数の増加にはなかなか反映されていない。阿賀野市包括支援センターからの新規依頼も減少傾向である。包括支援センターや病院等へ新規受け入れが可能なことを引き続きアピールして新規獲得していきたい。

4 その他

ボランティアについては、習字(青柳様)、フルート演奏(堤様)、レクダンス(チューリップの輪)、絵手紙(にじいろ)の受け入れを定期的に行った。

地域の方々と関わりを持ち、交流やコミュニケーションを通し、ご利用者への満足感やサービス向上を図り、生活の質(QOL)を上げる手助けをすることができた。また、職員の業務負担軽減にもつながり、今後も同様に受け入れを行っていく。

特別養護老人ホームこすど蒼丘の里 事業報告書

1 施設の重点目標

・働きやすい職場づくり

ご利用者、職員、来所者に対して挨拶はできているものの、全員が元気にできていたとは言えなかった。面会者や見学者も増えているので、次年度も継続して取り組む。

昨年度と比べて他職員への批判は少なくなっているが、部署によってはそのような行為が見られたため、都度リーダーと情報共有をして本人と面談を行ってきた。チームケアを行う上では職員同士の信頼関係が何より大切であるため、次年度も継続して取り組む。

特養ではこれまでユニットの枠を超えて入浴介助を行っていたが、ミスト浴の導入に伴い各職員が所属ユニットのご利用者を担当できるように変更した。ご利用者一人ひとりの状態を深く理解した職員が担当することで、ご利用者、職員ともに安心して入浴が行える環境になった。

また、オムツ介助の見直しを行い、朝に集中していた排泄介助の人数を分散させたことで一日を通して業務が平準化し、業務効率の向上に繋がった。

特養・短期入所・デイサービス・医務室の全部署でインカムを使用したことで職員間の情報共有がスムーズになり、業務効率が向上しただけでなくご利用者への対応が迅速になったことで事故防止にもつながった。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
特養 (ユニット) 定員 70 人	稼働率	95.0%	96.0%	1.0%	年間入退居 入居 16 人 退居 18 人
	利用者	66.5 人/日	67.2 人/日	0.7 人	
短期入所 定員 20 人	稼働率	95.0%	102.9%	7.9%	年間延利用者 介護 7,032 人 障害 494 人
	利用者	19.0 人/日	20.6 人/日	1.6 人	
通所介護 定員 35 人	稼働率	77.1%	81.5%	4.4%	年間延利用者 介護 10,028 人 障害 109 人
	利用者	27.0 人/日	27.8 人/日	0.8 人	
居宅介護 最大 220 件	稼働率	84.1%	81.7%	△ 2.4%	年間総件数 介護 1,913 件 予防支援 737 件 サービス A143 件
	件数	185 件人/月	179 件/月	△ 6 件	

3 事業実績

<特養>

退居者 18 人中 11 人の方に対して看取り介護を行った。退居後 2 週間以内に次のご利用者に入居していただけた。

<短期入所>

特養の空床ベットも使い、稼働率 100%を超えることができた。

<通所介護>

10 月に疥癬、3 月にコロナの感染が広がりキャンセルが多く見られたが、年度を通し昨年度の延べ利用者数を上回ることができた。

6 月からボランティアとフルールご利用者の協力により、囲炉裏喫茶を週 1 回で開催した。入浴前後に多くのご利用者が囲炉裏を囲み、ボランティアの方々との話に花が咲く様子が見られた。

職員については退職や体調不良による長期の休みがあり、急遽派遣職員で対応した。

<居宅介護>

人事異動による担当ケースの引継ぎもあり目標達成はならなかったが、昨年度よりも多くのご利用者を受け入れることができた。一部職員は AI を活用して計画書の作成を行い、効率化を図っている。更なる業務改善を行い、次年度は目標件数を上回るよう取り組む。

4 その他

ボランティアについては地域の方々に来ていただき、ギター演奏、日本舞踊、太鼓、フラダンス、ウクレレ演奏、生け花等の活動を行っていただいた。新型コロナウイルスが 5 類になって以降は行事の規模を徐々に拡大し、施設全体行事として夏祭り、秋祭り、クリスマス会を開催し、楽しんでいただいた。

令和 9 年度に入社予定のミャンマー留学生を、入社時にスムーズに職場になじめるようにパート職員として受け入れた。留学生は学校で習う介護技術や知識だけではなく、認知症のお年寄りとのコミュニケーションや記録などの実践の場として取り組んだ。

大規模修繕工事として、全館の照明の老朽化により蛍光灯から LED への交換と全ユニットのエアコンの操作パネルを交換した。

特別養護老人ホームなかかんの里 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・サービスの質の向上

メイプルぷらすに清掃洗濯等の業務を委託したことで、介護職員が本業に専念できる環境を維持できた。

認知症チームケアの取り組みを令和7年5月（従来型は令和8年1月）から開始した。BPSD 評価からワークシート作成、プラン立案までの一連の流れを通して認知症ケアに対する職員の意識向上につながった。今後は実践を拡大していく。

不適切な介護について、ユニット会議や虐待防止委員会の他、当該職員に対する指導を実施した。また、職員の言動によるご家族からの苦情についても指導を行った。今後もご利用者やご家族に寄り添った言動を心がける。

リスクマネジメント委員会にて事故防止に取り組み、服薬事故は減少したが落薬事故は横ばいであった。職員の労災は2件（針刺し事故、介助中の負傷）であった。また、慢性疼痛としての腰痛を自覚する職員もいることから、引き続き腰痛予防についての研修を実施する。今後は60歳以上の職員に対して、福祉施設向けの転倒予防体操マニュアルを配布し、セルフケアを行うことで事故防止を図る。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
特養（従来） 定員 40 人	稼働率	95.0%	97.4%	2.4%	年間入退居 入居 12 人 退居 13 人
	利用者	38.0 人/日	38.9 人/日	0.9 人	
特養（ユニット） 定員 60 人	稼働率	95.0%	90.7%	△ 4.3%	年間入退居 入居 14 人 退居 20 人
	利用者	57.0 人/日	54.4 人/日	△ 2.6 人	
短期入所 定員 20 人	稼働率	95.0%	92.2%	△ 2.8%	年間延利用者 介護 6,595 人 障害 132 人
	利用者	19.0 人/日	18.4 人/日	△ 0.6 人	

3 事業実績

<特養（従来）>

ユニット型特養に比べて入居申込みが多く、目標を達成できた。昨年度より男性居室を減らし、4床にした。このことにより女性ご利用者のスムーズな入居につながっている。また、年間申込者数も46名で、ユニット型より多かった。

<特養（ユニット）>

従来型に比べ入居申込が少なく、年間 6 名であった。入居に際し、「従来、ユニットどちらでも」を希望された申込者は 15 名であるが、現在入居中の方で経済的事情から従来型に移りたい方が 3 名発生し、うち 1 名が従来型に移った。看取りによる年間の退居が従来は 6 名に対し、ユニット型は 13 名と多かった。次期ご利用者が決まらないことが稼働低下の原因である。対策として短期入所の長期ご利用者からの入居を積極的に進め、年間 7 名の方に移っていただいた。また、新潟市内の病院（特に中央区、西区）及び居宅事業所への営業に回り、空きベッド状態についての定期的な情報提供に努めた。

<短期入所>

7 月～10 月は稼働が低下していたが、特養の空床（443 床）も利用し 11 月以降は稼働が上昇した。医療行為が必要な方も受け入れられるよう、職員の意識改革に努めた。居宅事業所へ空き情報を定期的に流し、新規ご利用者の獲得に努めた。

4 その他

- ・生活相談員以外でもできる業務を切り離し、業務負担を軽減することができた。
（ご家族への物品依頼については、居室担当ケアワーカーが行うことに変更した）
- ・BCP（事業継続計画）に基づき、停電非常食訓練を行い、課題の洗い出しを行った。近隣福祉施設と地域住民と非常食の防災訓練を実施し、備蓄についての準備を行った。
- ・10 周年記念祭を行い、和太鼓の演奏やラーメン屋台による作りたてのラーメンを提供し好評だった。
- ・予約のない自由面会までは実施できず、予約制の面会を継続したが、枠を広げることで面会の回数は増加した。しかし、ご家族からの自由面会の要望もあり次年度の課題である。

特別養護老人ホームかめだ本町の里 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・安全・安心な継続的介護を行い、地域に貢献する

地域に密着した施設としてご利用者・ご家族・各関係者との良好な信頼関係を維持してきた。特養では人員不足により業務に追われ個別性を尊重したサービス提供への取り組みが不十分であった。部署やユニットの枠を越え、互いに助け合い利用者の生活を守る意識で行動することはできたが、今後は人員体制を整え、各自が主体性を持ちチームとしての協調性も育み、一層のサービス向上を目指したい。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
特養 (ユニット) 定員 29 人	稼働率	95.0%	97.3%	2.3%	年間入退居 入居 10 人 退居 10 人
	利用者	27.6 人/日	28.2 人/日	0.6 人	
短期入所 定員 10 人	稼働率	95.0%	89.7%	△ 5.3%	年間延利用者 3,275 人
	利用者	9.5 人/日	9.0 人/日	△ 0.5 人	
訪問介護	訪問時間	650 時間	600 時間	△50 時間	延利用者数 821 人
	利用者	80 人/月	68 人/月	△ 12 人	

3 事業実績

<特養>

入退居者数は例年並みであったが、看取り件数は昨年度の 2 名から 7 名と増加し、医療連携の強化やご利用者・ご家族との関係を深めることができた。看取り件数の増加により入院件数が減少し目標とする稼働を越えることができた。看取り体制で計画的な次期入居者の選定につないだが、空床数の改善には至らなかった。

<短期入所>

急なキャンセルや入院等が生じた時に迅速な対応ができなかった。短期入所から特養入居となる件数が多かったが、その空床への対応が後手に回っていた。入所に際しユニット型個室という料金負担面の課題はあるが、満足できるサービス内容を維持し新規利用の為の情報発信や獲得活動を通じて稼働の改善に努めていく。

<訪問介護>

計画通りの利用者数や訪問時間数には至らなかったが、収支差額は128%増となった。
登録ヘルパーの人数が減り、人件費が下がった事が要因として上げられる。

介護度の高いご利用者が、体調不良で入院されても退院後の利用枠を開けておく必要がある為新規の受け入れを躊躇せざるを得ず、稼働を伸ばせなかった。

4 その他

- ・面会制限をなくし、ご利用者・ご家族双方に安心していただけるよう心がけた。
- ・新人職員や休職からの復帰職員に対しプログラムを作成し、職員全体で対応した。
- ・地域のお茶の間の場所として交流室の開放やとくし丸（移動販売）の販売場所として提供し、地域の方が集える施設として認知度を上げた。
- ・ボランティアや実習生の受け入れを行い、地域の一員として社会に溶け込み、相互協力できた。

特別養護老人ホームにこやか 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・サービスの質の向上

定期的に行う部署会議で丁寧な言葉遣いについて目標をたて意識づけを行った。その結果、日頃からご利用者の『選択と同意』に基づく意思尊重の実践を通じて家庭的で安心感のあるサービス提供を心がけることができた。また、介護記録システム活用による業務改善で創出した時間を直接的なケアに充てることができたが、居室環境や共有スペースの整理整頓が疎かになっていることがあり、継続的な声掛けや改善が必要である。生産性向上に向け環境整理の見直し、業務改善に取り組んでいく。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
特養(ユニット) 定員 29 人	稼働率	95.0%	98.1%	3.1%	年間入退居
	利用者	27.5 人/日	28.4 人/日	0.9 人	入居 5 人、退居 5 人
短期入所 定員 10 人	稼働率	93.0%	96.9%	3.9%	年間延利用者
	利用者	9.3 人/日	9.6 人/日	0.3 人	3,538 人
通所介護 定員 25 人	稼働率	72.0%	66.8%	△ 5.2%	年間延利用者
	利用者	17.5 人/日	15.7 人/日	△1.8 人	4,996 人

3 事業実績

<特養>

退居者 5 名、入院者 4 名と、例年より退居者・入院者ともに少なく、目標としていた稼働率を達成することができた。

入居までに要した期間は、平均 26.8 日、最短 7 日、最長 84 日（うち SS 空床利用 59 日）であり、例年より長期化した。また、入居申込者は 22 名であったが、にこやかに入居された方を含めた 18 名が待機者登録から外れ、待機者数が増えない状況が続いた。

来年度も待機者の増加は見込みにくいため、入所期間の短縮化を図り、目標達成に向けて取り組んでいく。

<短期入所>

4 月はご利用者の入院や施設入居が重なり一時的に稼働が低下したが、5 月以降は安定した推移となった。特養本体の稼働も好調であったため、例年のような特養空床の利用は比較的限定的であったが、安定した稼働率を出すことができた。

ユニット型個室という料金負担面の課題はあるものの、利便性とケアの質を評価いただけるよう、今後も調整機能を強化していく。

<通所介護>

曜日によって稼働数にばらつきがあり、新規ご利用者の受け入れを進めたものの、入院や他施設への移行などによって欠員を埋めるまでには至らず、目標に届かなかった。現在は工作や裁縫などの手作業・リハビリ機器の活用を推進しており、次年度に向け稼働率向上を図る。

4 その他

車両整備については、日本財団助成金を活用し送迎車両（日産セレナ）の更新を行うことで、ご利用者の安全確保と送迎業務の効率化を実現した。

設備改修については、令和 7 年度地域介護・福祉空間整備推進交付金を活用し、特養部分の電気温水器および給湯器を更新した。経年劣化による故障リスクを解消し、給湯環境が安定したことでご利用者の安全を確保できている。なお、未改修区域（短期入所、デイサービス等）についても、次年度の更新に向けて計画的に準備を進めている。

ボランティアについては地域ボランティアの皆様の協力により、定期的に「喫茶」の開催を継続し、ご利用者にとって大きな楽しみ場となっている。また、ボランティア団体による定期訪問も増加傾向にあり、今後も地域社会との互恵的な関係性を大切にしながら、活気ある施設運営を目指していく。

ショートステイかめだ早通の里 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・職員全員に共通する明確なルールを作り生産性の向上につなげる

早通の里の共通基本ルールとして、当日の勤務表の一番上に記載された職員が、その日のリーダーとして施設全体を見ながら業務を行った。自分目線から相手目線へと意識を切り替え、職員間のコミュニケーションを重視しながら業務を進めてきた。また、職員一人ひとりが「何をすべきか」「どうあるべきか」を考え、行動を予測しながら業務を行っていることで施設全体のスキルアップにつながった。

シーツ交換、洗面所清掃、消毒業務等をメイプルぷらすに、衣類の名前付けを縫物ボランティアへ委託することでケア業務に集中できる環境を整えた。職員がスムーズに成長しながらチームに溶け込み、安心して安全に働ける職場づくりを今後も重視していく。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
短期入所	稼働率	95.0%	85.8%	△ 9.2%	年間延利用者
定員 48 人	利用者	45.6 人/日	41.2 人/日	△4.4 人	15,043 人

3 事業実績

<短期入所>

入院や他施設へ移るための退所等による長期利用枠の空きにより、稼働に大きな影響が出てしまい年間を通して目標には届かなかった。上半期の低迷を回復できるか情勢を見極めるために居宅介護支援事業所へアンケートを実施した。「サービスの質」と「施設職員との情報共有や意見交換」を重要視していることを確認し、令和8年度に向けて再構築を行った。

4 その他

「本日のご利用者数と今月の目標」をインカムで当日の職員に伝えることは現在行っておらず「本日のご利用者数」のみインカムで担当職員が周知している。初心に立ち返り、職員行動指針（「中蒲原福祉社会が求める理想の職員像誰からも信頼される職員になるために」）を掲示し全職員で共有している。

職員間の定期面談については、各部署の上司と職員、管理者と職員と様々なパターンで実施している。施設のビジョンや目標の共有、職員の状況や課題の認識、職員自身の成長を実感する場、自分の意見や考え方を安心して話す場として役割を果たしている。

車両整備については安全に送迎業務が行えるよう、送迎車の買い替えを実施した。また、設備改修については老朽化したエアコンの更新工事を実施した。

デイサービスセンター第2 蒼丘 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・一人ひとりに合ったサービスの提供と働きやすい環境作り

令和7年度から選択レクリエーションを取り入れ、体操または創作活動のいずれかをご利用者が選べるようにした。無理に全員を誘って集団レクリエーションを行うのではなく、個々の希望に合わせた活動を提供できるようになった。職員の出勤人数によっては集団レクリエーションになる場合もあるが、ご利用者は新たなサービスに慣れ、自らやりたいことを選択して楽しむ様子が見られた。

働きやすい環境作りについては、少数の職員で業務をしているため情報共有はしやすく、お互いカバーし合いながら業務を行うことができた。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
通所介護	稼働率	76.0%	82.5%	6.5%	年間延利用者
定員 25 人	利用者	19.0 人/日	20.6 人/日	1.6 人	6,363 人

3 事業実績

年度初めは、入院やお亡くなりになる方が重なり、ご利用者が激減した。そのため、10台のベッドを半分に減らし、活動スペースを確保した他、ボランティアの受け入れや調理レクリエーション、買い物など新しい取り組みを行った。

下半期には SNS を利用し、外部に情報発信を行い、その結果、年度末にかけて徐々に利用される方が増えた。今後は施設から近く、自立度が高いご利用者に選ばれるようにしていく。

4 その他

ボランティアについては計7団体（大正琴、オカリナ、ウクレレ、手品、ダンス、ピアノ）の方々が訪問された。新型コロナウイルス流行後の久々の受け入れで、準備や進行が上手くいかないこともあったが、回数を重ねてくうちにスムーズに行えるようになった。下半期に入り1日あたりの利用者数が増えたことで全体が活気づき、リアクションも良く、ボランティアの方々も楽しんでいる様子が見られた。

1月から調理レクリエーションを毎月定期的に行っている。食べることだけが目的ではなく、それぞれのご利用者に役割をもってもらい、一緒に作ってみんなで食べて美味しかったと記憶に残るように体験してもらうようにした。

個別機能訓練では棒体操やケアワーカーと一緒にやる体操（ゴシゴシ体操）が日課となっている。作業療法士による個別機能訓練もその方に合った（歩行訓練、ペダルこぎ、平行棒、段差昇降等）内容で行っている。

フルールこすどのご利用者が作る昼食も美味しいとの声が多く好評である。また、職員によるギター演奏や音楽を使った歌唱など楽しみにしている方がいるため、飽きが来ないように曲を毎日変えて演奏している。

デイサービスセンターリハフィットこうよう 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・質の高いサービス提供

リハビリや運動を中心としたサービスを行ってきたが、そこに加え今年度は「ご利用者の楽しみ」を増やすことを目標とし、ご利用者の要望に応えながら行事や余暇活動を取り入れ好評を得ることができた。多くの楽しみが増え、リハフィットに行くのが楽しみという声もいただいた。また、職種間の連携も十分にとれ、お互いの立場や考え方を理解しながら業務を遂行することができた。更に、各関係者と情報共有を密にとってきたことで居宅事業所より連携体制について高く評価されている。今後も利用者の状態や変化、ニーズの把握、情報共有、楽しみの充実化を図り各関係者と連携していく。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
通所介護	稼働率	85.7%	92.3%	6.6%	延利用者数 7,876 人
定員 35 人	利用者	30.0 人/日	32.3 人/日	2.3 人	

3 事業実績

新規を 30 件受けることができた。近隣の居宅事業所より、かめだ圏域で一番自立度が高いデイサービスであり、運動やリハビリに特化しているためご利用者に勧めやすいと言われている。新規の問い合わせをコンスタントにいただいているが、定期枠に空きがない状況でも、不定期から利用していただくよう提案し徐々に定期利用できるよう工夫してきた。また、追加利用を希望する方もおり、キャンセル待ちから利用するケースも多数あり延利用者数を増やすことができた。

4 その他

ご利用者の要望を聞きながら、1 周年記念祭や運動会、お盆フェスティバル、忘年会、ガーデニング、麻雀などご利用者の楽しみを増やした。

災害時に備えて水害訓練を実施し、新潟ふれ愛プラザや向陽の里と連携して取り組むことができた。

グループホームこうよう 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・個別ケアの実践とチームケアの質の向上の促進

個別ケアの実践として、“共に行う家事”や個別の趣味活動やリハビリに取り組み、ご利用者一人ひとりが役割や楽しみを持てるよう支援した。また、ご家族に対しては写真や手紙を通して日々の様子を丁寧にお伝えし、安心していただけるよう努めた。その結果、ご家族アンケートでは高い満足度評価につながった。

チームケアの質の向上に向けては、認知症介護実践者リーダー研修に1名が参加し、施設実習の課題にチーム全体で取り組んだ。また、個別面談を実施し、職員それぞれの課題や目標を共有することで、目的意識を持って業務に取り組み、ケアの質の向上に努めた。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
認知症対応型 共同生活介護 定員9人	稼働率	98.0%	99.9%	1.9%	年間入退居なし
	利用者	8.8人/日	8.9人/日	0.1人	

3 事業実績

ご利用者の体調が安定していたことや大きな事故等もなかったことから、入退居はなかった。3月に入院者が2名いたが、いずれも入院日数は短く、稼働率は計画より良い数字となった。

4 その他

毎月の職員会議にて、事故・ニアミス報告に対する原因分析や再発予防策について検討した。特に服薬管理について、情報共有を徹底し、再発防止に努めた。

手作りの食事や季節感を取り入れた行事を通じて、入居者の満足感や楽しみの提供に努めた。また、ボランティアの受け入れや認知症カフェへの参加、図書館の利用などを通じて、地域交流や社会参加の機会を設け、活動の幅を広げた。9月には、「新潟オレンジプロジェクト」に参加した。

新型コロナウイルス感染症による施設療養を2回行ったが、BCPの研修や訓練の成果を活かし、感染拡大や重症化を防ぐことができた。また、対応後には振り返りを行い、BCPの見直しを行った。

障害者支援施設あさひ園 事業報告書

1 施設の重点目標

・働きやすい職場づくり

職員の行動指針の一つである「お互いさまの気持ち」を大切にし、積極的に声を掛け合うなどコミュニケーションを重視し業務を行った。相互理解を深めることで、相談や意見交換がしやすい雰囲気づくりに努めた。また、毎月の会議で月間目標を掲げることで職員一人ひとりが目標を意識し、実践することで心の余裕や業務への姿勢など振り返りの場を設定する意味でも効果的であった。ICT 活用についてはタブレットの動画機能を活用し、夜勤者の音声情報を録音し、日勤帯で各々が情報共有を図った。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
施設入所支援 定員 20 人	稼働率	98.0%	94.1%	△ 3.9%	年間入退居 入居 5 人、退居 5 人
	利用者	19.6 人/日	18.8 人/日	△0.8 人	
短期入所 定員 4 人	稼働率	100%	116.6%	16.6%	年間延利用者 1,703 人
	利用者	4.0 人/日	4.7 人/日	0.7 人	
日中一時支援 定員 4 人	稼働率	50.0%	50.0%	—	年間延利用者 722 人
	利用者	2.0 人/日	2.0 人/日	—	

3 事業実績

<施設入所支援>

長期入院や入退所が非常に多く、ご家族の希望等もありスムーズに入居することができなかった。また、地域移行により日中の居場所として他事業所に通所するケースも多くあることも稼働低下の要因である。先を予測し早期にご利用者の確保ができるよう努める。

<短期入所>

長期や定期のご利用者が施設入所に移行したことで、空きが多く発生した。新規の問い合わせはあるが、対応困難のためお断りするケースがあった。また、相談支援専門員との関係づくりや空き情報の共有が不足していた。先を見通し早期対応を心掛ける。

<日中一時支援>

入浴や送迎等、希望に沿うことができないケースがあった。利用できるようにする為の提案や業務の見直しをしつつ、ご利用者のニーズに応えていきたい。

4 その他

老朽化にともない、設備修繕や入替を行った。感染については蔓延することなく落ち着いていたが、高齢化による健康の維持が難しく、入院や退居が多かった。

障害福祉サービス事業フルールこすど 事業報告書

1 施設の重点目標

・接遇の質の向上に努める

ご利用者やご家族に対して、丁寧な言葉遣いを心がけ、声の大きさや話すスピードにも配慮し、笑顔で接するよう努めた。直接対応する場面では、取り組みの成果があった。しかし連絡帳や電話での連絡の際、こちらが伝えたいことを一方的に伝えてしまい、ご利用者やご家族が不快な思いをしたことがあった。

引き続き、どのような場面でも、ご利用者やご家族から「フルールに任せて安心」と思われる態度で接することができるよう努める。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
生活介護 定員 20 人	稼働率	85.0%	94.8%	9.8%	年間延利用者 5,085 人
	利用者	17.0 人/日	18.9 人/日	1.9 人	
就労継続 支援 B 型 定員 35 人	稼働率	95.0%	99.6%	4.6%	年間延利用者 9,312 人
	利用者	33.3 人/日	34.8 人/日	1.5 人	
相談支援 センター	計画と モニタ リング	27.1 人/月	(者) 16.1 人/月 (児) 6.2 人/月	△4.8 人	3 月末計画 相談利用者数 (者) 55 人 (児) 35 人

3 事業実績

<生活介護>

4 月から新規ご利用者 2 名が利用開始し、退所者はいなかった。感染症の拡大はなく、稼働は維持できた。

以前から希望のあった医療的ケアの必要な方の施設送迎や利用日を増やすなど、できることを一つずつしっかりと行った。また、ご家族から希望のあった土曜開所も、全グループ合同の『夏祭り』という形で実行し、温かいお言葉をいただいた。

<就労継続支援 B 型>

4 月からの新規ご利用者はいなかったが、年度の途中から 4 名利用開始となり、4 名が退所となった。外部事業者から仕事を獲得できるよう努力し、封入作業やポスティング作業を契約したが、定期的な作業にはつながっていない。今後も新たな作業を獲得できるよう努力する。特養での作業は囲炉裏喫茶の作業を再開し、ボランティアの方と協力して作業が進められるよう今後調整していきたい。

今年度初めて賞与を支払い、平均工賃アップにつながった。

<相談支援>

モバイル Wi-Fi とノートパソコンの活用により、移動の隙間時間の活用の成果が残業時間の減少につながった。

目標の件数を達成できなかったが、サービスの見直しなども含め個別の相談が多く、丁寧に対応した。

4 その他

生活介護、就労継続支援 B 型ともに定員に達しているため、利用希望の問い合わせがあっても受け入れることができない状況である。曜日によって利用人数に差があるため、ご利用者やご家族と相談し、平準化をしてきたい。生活介護は特別支援学校からの見学依頼、実習、卒業後の空き状況の問い合わせが多かった。

子育て中の職員が多く、出勤予定になっていても休みとなることがあるが、出勤している職員が協力して乗り切った。

障害福祉サービス事業わかばの家 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・基本に立ち返った業務の見直しとサービスの質の確保

法人で最も歴史ある就労継続支援B型・生活介護の事業所として、基本的なことを確実にこなし、サービスの質において派手さはないが、安心してご利用者を任せられる揺るぎない施設を目指して取り組んできた。

職員研修や各部署の会議においてこの重点目標を意識した意見交換を重ねるとともに、伝え方と聞き方等の基礎的なコミュニケーションスキルの向上や、家族に与える印象や関係性の構築に関する研修も取り入れた。結果として全職員の仕事に対する基本的姿勢や業務上求められる共通認識の水準も高まり、施設としての実力が向上したと考えている。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
生活介護 定員 14 人	稼働率	100.0%	100.1%	0.1%	年間延利用者 3,805 人
	利用者	14.0 人/日	14.2 人/日	0.2 人	
就労継続支援 B 型 定員 45 人	稼働率	98.0%	92.5%	△ 4.7%	年間延利用者 11,197 人
	利用者	44.1 人/日	41.7 人/日	△2.4 人	
日中一時支援 定員 6 人	稼働率	2.0%	0.7%	△1.3%	年間延利用者 20.0 人
	利用者	0.1 人/日	0.1 人/日	—	
相談支援事業	計画と モニタ リング	100.0 人/月	(者)90.0 人/ 月 (児) 9.0 人/ 月	△1 人	3 月末計画相談 利用者 (者) 284 人 (児) 43 人

3 事業実績

<生活介護>

環境整備や支援の向上により安定した利用につながった。地域のニーズも高く問い合わせも寄せられるが、受入枠の上限に達していることから対応できていない。今後はわかばの家の就労継続支援B型から移行するご利用者も出てくる可能性があることから、対策を検討していく。

<就労継続支援B型>

ご利用者全体の平均年齢が上がったこともあり、状態が不安定になるケースが増えた。また、わかばの家としては異例の長期ご利用者の契約解除が2件あり、稼働に影響が出た。今後は高齢化・重度化への対応をさらに進めていく必要がある。

<日中一時支援>

新規ご利用者の獲得はせず、継続利用中の2名に対応している。

<相談支援>

これまでの地域の関係機関と連携を密にした活動に加え、常勤職員4名すべてが主任相談支援専門員の有資格者という体制を生かした加算を獲得し、質の高い支援と収支改善を両立することができた。

4 その他

就労作業の新たな柱となったガス給湯器の回収・解体・分別作業が取引量・金額ともに伸びたことで、平均工賃の引き上げを果たすことができた。また作業工程の工夫を重ね、ご利用者の能力開発とやりがいという面でも成果が出ている。さらに、各種補助金の獲得により活動環境の整備を進めることができ、次年度以降の安定した就労作業の基盤を固めることができた。

障害福祉サービス事業ネクサス・わかば 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・居心地の良い空間を創造する

ご利用者の障がい特性を理解し、個々に「居心地の良い空間」を提供できるよう、職員の資質向上を図るべく、毎月の内部研修に加え終日の集中研修や外部研修への派遣を継続的に実施した。

児童支援については『家庭』『教育』『福祉』の強固な連携・協働体制を構築すべく、学校等を含む関係機関によるケース会議へ参加しつつ、送迎時の保護者様や学校教諭との密な情報共有を通じて、個々のニーズに即したきめ細やかな支援の展開に努めてきた。

職員の働きやすさ向上のため、各部署の定例会議において業務改善の機会を設け、課題が生じた際にはその場ですぐに検討・対応を行った。また、職員への面談も随時実施し、個々の悩みや意見を丁寧に汲み取ることで、より風通しの良い職場環境づくりに努めた。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
生活介護 定員 40 人	稼働率	99.0%	104.2%	5.2%	年間延利用者 11,214 人
	利用者	39.6 人/日	41.7 人/日	2.1 人	
就労継続支援 B 型 定員 20 人	稼働率	99.0%	86.6%	△12.4%	年間延利用者 4,730 人
	利用者	19.8 人/日	17.3 人/日	△2.5 人	
短期入所 定員 12 人	稼働率	143.0%	138.9%	△ 4.1%	年間延利用者 6,052 人
	利用者	17.1 人/日	16.6 人/日	△0.5 人	
放課後等 デイサービス 定員 10 人	稼働率	98.0%	93.9%	△ 4.1%	年間延利用者 2,526 人
	利用者	9.8 人/日	9.4 人/日	△0.4 人	

3 事業実績

<生活介護>

利用人数の実人数に変動はなかったものの、週の利用日数を増やした。また全体の欠席率が低下し利用が安定したことにより、実績が目標値を上回った。また1月より重度支援加算を算定し収入を伸ばしている。

<就労継続支援 B 型>

7月に他施設への移籍に伴い利用契約が終了するご利用者が複数名いたが、令和7年度中に欠員を補充するに至らず、目標稼働率の達成することができなかった。就労支援事業

に関しては外部からの受託作業等を順調に増やしていき安定した収入を得ることができた。

<短期入所>

前期より利用日数の多かったご利用者の施設入所等が重なった。利用実人数が減少したため新規の受け入れや、日程調整時に支給量に応じ月内で複数回の利用を促した。また相談支援専門員にも空き情報を伝え利用者数確保に努めた。その他にも新潟市や関係機関などからの緊急受け入れの依頼にも対処したが、目標としている稼働率までは届かなかった。

<放課後等デイサービス>

令和 7 年度は利用の日程調整の段階から、定員 10 名に合わせて調整を行った。8 月については、手術に伴う入院者が数名いた影響もあり、稼働が伸び悩む結果となった。また、11 月頃には感染症の流行による学級閉鎖等の影響を受け、稼働率を思うように引き上げることができなかった。キャンセルが分かった時点で補充なども行っていたが、目標としている稼働率までは届かなかった。

4 その他

生活介護のデネブグループのマットスペースに凹凸やマットのゆがみ段差があり、真柄福祉財団の施設設備助成金を活用し、マットスペース張替工事を行った。

車両については、令和 6 年度に発注していた福祉車両（トヨタ ノア）が 5 月に納車された。また、2 月には走行距離が 23 万キロを超えているハイエースも車検で修理費なども高額になる為、このタイミングで売却した。

障害福祉サービス事業メイプルかめだ 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・ご利用者に対する手厚い個別支援体制

日頃よりサービス管理責任者を中心として、個別支援計画の作成と実施に取り組んできた。年末に個別支援計画確認・年度末近くに運営指導をそれぞれ新潟市から実施していただき、現状の取り組み確認もできたことが最も良かったと思われる。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
就労移行支援 定員 7 人	稼働率	90.0%	94.7%	4.7%	年間延利用者 1,783 人
	利用者	6.3 人/日	6.6 人/日	0.3 人	
就労継続支援 B 型 定員 40 人	稼働率	95.0%	82.8%	△ 12.2%	年間延利用者 8,921 人
	利用者	38.0 人/日	33.2 人/日	△ 4.8 人	
自立訓練 (生活訓練) 定員 13 人	稼働率	80.0%	41.2%	△ 39.8%	年間延利用者 1,438 人
	利用者	10.4 人/日	5.3 人/日	△ 5.1 人	
就労定着支援	件数	6.0 件/月	5.3 件/月	△ 0.7 件	年間延利用者 63 人
共同生活援助 定員 14 人	稼働率	97.0%	91.0%	△ 6.0%	年間延利用者 4,647 人
	利用者	13.5 人/日	12.7 人/日	△ 0.8 人	

3 事業実績

<就労移行支援>

一般就職 4 名・A 型就労 2 名の就職実績が出た中で稼働目標を達成できた。

<就労継続支援 B 型>

稼働目標を大きく下回る結果となった。想定外の利用中止が多かったことが原因であると考えられる。

<自立訓練>

毎日通所できる方が少なく稼働目標には達しなかったが、職員配置が少ないため収支に影響はなかった。

<共同生活援助>

男女ともに退居者が出たが、新規入居予定者の急なキャンセルにより決定までに多くの時間を要し、稼働が低下した。

4 その他

- ・江南区との取り組みは増加しているが、物価高騰の影響により利用者工賃を向上には至らなかった。
- ・物価の高騰もあり、グループホームご利用者の負担見直しを実施した。
- ・今年度は就労選択支援サービスの実施に向けて検討を進めてきたが、現時点では面積基準の確保や安定した経営の見通しが立たないことから、事業の実施を見送ることとした。

障害福祉サービス事業メイプル・ぷらす 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・施設の位置付けと支援の方針の具体化による経営の健全化

これまでの活動や作業、支援の考え方や姿勢を見直し、ご利用者が活動先施設から求められる労働力を安定して供給できる施設を目指し取り組んできた。

制度や経営面について職員研修で理解を求めるとともに、グループワークを繰り返して行い、これまでの10年の経過を踏まえつつ次の10年の継続を目指して何をすべきかを職員自身で考え、業務改善することで成果を上げることができた。

支援の面では、ご利用者の成長を目指す一方で、行動面で課題が大きく当施設における支援の方針と一致しないご利用者には利用方法の見直しを提案し、契約終了となるご利用者も少なくなかったが、今後の発展に向けた体制を整えることができた。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
就労継続支援 A 型 定員 15 人	稼働率	80.0%	68.2%	△11.8%	年間延利用者 2,748 人
	利用者	12.0 人/日	10.2 人/日	△ 1.8 人	
就労継続支援 B 型 定員 37 人	稼働率	85.0%	85.9%	0.9%	年間延利用者 8,545 人
	利用者	31.5 人/日	31.7 人/日	0.2 人	

3 事業実績

<就労継続支援 A 型>

精神障害者の1年後の就労定着率は一般的に50%といわれており、新規ご利用者の獲得も多かったが契約終了も多く、目標には遠く及ばなかった。一方で、A型利用者を募集するハローワークの求人を通じての見学・体験受入は活発で、A型を希望してきたもののB型から開始するというケースもあり、多機能型施設のメリットが活かされた。

<就労継続支援 B 型>

施設外就労が容易ではないご利用者への支援として、施設内作業の開拓と作業環境の整備に取り組み、作業量も取引額も増加し成果を上げた。法人内施設の委託料の引き上げと合わせて工賃の財源が増加したこともあり、ご利用者の能力や成果に応じて魅力ある工賃を提示できる仕組みを構築することができた。

4 その他

施設の位置付けを具体化する取り組みとして、ご利用者だけでなく職員に対しても「私たちの担当業務は高齢者や障害者の生活を支える重要なものである」という点を強調し、

厳しい面もあり責任も伴うが、やりがいがありそれに見合った賃金や工賃を得られる仕事であることを繰り返し伝えている。引き続き新規ご利用者獲得と一貫性のある支援につなげていきたい。

地域活動支援センターかめさん 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・ご利用者の社会参加を応援する

毎月のイベントや年に数回ある遠距離研修を行い、社会との繋がりを持つ企画を実施した。毎回参加するご利用者もいるが、企画によって参加を敬遠する方も多くいるため、今後なるべく多くの方に参加いただけるように企画・実施する。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
地域活動支援センターⅢ型 定員 20 人	稼働率	75.0%	55.2%	△ 19.8%	延利用者数 2,704 人
	利用者	15.0 人/日	11.0 人/日	△ 4.0 人	
サポート相談 定員 45 人	件数	50.0 件/月	22.3 件/月	△27.7 件	地域相談 76 件 通所促し 1,921 件

3 事業実績

<地域活動支援センター>

ご利用者が通いたくなる工夫を職員一同で考え実践したが、なかなか大きな成果とならなかった。

<サポート相談>

年々、相談を実施することが減少している。あくまで受身な事業で、こちらから連絡を行い実施することは無いので、事業としての伸びは今後も期待できない状況である。

4 その他

- ・江南区はるみどり協議会を通して、ふれ愛まつりでイベント出店を実施した。その他はご利用者の参加が見込めないため出店できなかった。
- ・管轄地域外の障がい者基幹相談支援センター（中央・東）にも積極的に働きかけを行ったが、紹介等は無かった。
- ・見学対応は施設長が行うことに変更した。月によって見学人数に違いはあるが、月平均 1 名程度の見学があった。

四つ葉こども園 事業報告書

1 施設の重点目標

「子どもの最善の利益（幸福）の追求」

子ども一人ひとりの思いや育ちを大切にしながら保育・教育に努めた。子どもの気持ちに寄り添い、安心して職員や友だちと過ごせる環境づくりを進める中で、自分らしく表現したり、主体的に遊びや活動に関わったりする姿が多く見られた。また、保護者との連携を大切にし、家庭の背景を理解したうえで、家庭と園が共に子どもの成長を支える関係づくりに努めた。一方で、各関係機関と連携した保護者支援も行い、子どもと保護者を共に支援するケースもあった。今後も職員間で家庭の状況や子どもの成長を共有しながら、より丁寧な理解と保育に努めていきたい。

2 達成数値

実施事業	計画	実績	差	備考
こども園 定員 115 人	119.0 人	118.0 人	△ 1.0 人	
一時預かり	2.0 人/日	0.5 人/日	△ 1.5 人	年間延利用者 111 人

3 事業実績

<こども園>

4 歳児クラスにおいて、子どもたちの成長に伴い個別配慮や支援を必要とする児が増加した。そのため、クラス運営の安定を図る目的で職員を 1 名追加し、定員を 23 名定員のところ 22 名で対応した。

<一時預かり>

4 歳児クラスの対応のため、一時預かり事業における職員体制が不足する状況となった。次年度は、拠点園としての役割を十分に果たせるよう、適切な職員配置および人員体制の充実に努めていきたい。

4 その他

令和8年2月より、0歳児の午睡見守りを補助するための午睡センサー「icuco(いくこ)」を導入し、見守りを強化した。午睡センサーを導入したことで、午睡時のうつぶせ寝や体温の上昇にいち早く気が付くことができ、午睡の安全管理体制に取り組むことができた。

地域子育て支援センターにこっと 事業報告書

1 施設の基本事業

- ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ・子育て等に関する相談、援助の実施
- ・地域の子育て関連情報の提供
- ・子育て及び子育て支援に関する講習等の実施（月1回以上）

乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を提供し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行った。地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援することができた。

2 達成数値

実施事業	計画	実績	差	備考
子育て支援センター	20.0 人/日	24.0 人/日	4.0 人	
子育て相談・援助	5.0 件/月	10.9 件/月	5.9 件	延利用者数 130 人

3 事業実績

<支援センター>

計画を上回る親子に利用いただいた。当支援センターを気にいってくださり、午前・午後利用される方もいた。今後も地域の子育て支援に努めていきたい。

<相談・援助>

様々な相談があり、丁寧に相談に対応した。

警察が関わる相談内容が1件あり、江南区の指導保育士と情報共有した。

4 その他

老朽化した空調設備の更新工事を令和7年5月に実施した。